



内藤 勝さん

横浜ゴム株式会社新城工場勤務。  
育苗に造詣が深いこと、造園技術の高さを活かし、  
「千年の杜PJマイスター」として活躍している。

訪問日：平成26年3月25日（火）  
取材者：環境保全課 堀尾、山岸

本日は、横浜ゴム株式会社の新城工場に杜を創生するというプロジェクトに専任で取り組んでみえる、内藤勝さんを訪問しました。

横浜ゴムさんでは「YOKOHAMA千年の杜」というプロジェクトを行っているというのですが、どのようなプロジェクトですか？

横浜ゴムはタイヤの材料であるゴムを中心に自然からの恩恵を受けて事業を行っています。この事業活動で自然へ負荷をかけていることも事実です。

この自然への負荷を最小にするだけでなく、工場自体を環境に良い影響を与えるものにしたと考へ、創立100周年を迎える2017年までに工場に杜を創生するプロジェクトが「YOKOHAMA千年の杜」です。

2007年から国内7工場、海外11工場、合計18か所です。50万本を目指して植樹しています。

工場にかつてあったであろう杜がよみがえるのですね。工場



大変な数ですね。どんな種類の木を植えているのですか？

潜在自然植生の樹種です。潜在自然植生とはその土地本来の土壌や気候に適した、その土地に自然に形成される植生のことです。

国際生態学センター長であり横浜国立大学名誉教授でもある宮脇昭氏の指導のもと、土をつくり、どんぐりを集め、ポット苗をつくり、ポット苗を混植・密植しています。

敷地の他にも植樹をしているところはありますか？

「YOKOHAMA千年の杜」は「地域社会とのコミュニケーション」も目的としています。

植樹は工場敷地内だけでなく、自治体や学校、公園などにも地域の方と一緒にやっていきます。



工場のある愛知県だけでなく、震災被害のあった岩手県大槌町にも全社で植樹をしています。この植樹はただ杜を作るのではなく、「命を守る森の防潮堤」をつくっています。2012年

3391本、2013年に5000本植樹しました。2014年4月19日にも5000本の苗木を植樹し、2017年まで毎年植樹していく予定です。

10年後には高さ10メートル以上の緑の防潮堤となり、津波から命を守ることが期待できます。

すばらしい取り組みですね。新城工場からも参加されたのですか？

新城工場では何人の方が「YOKOHAMA千年の杜」に携わっているのですか？

新城工場からも1期と2期あわせて13名参加しました。新城工場で「YOKOHAMA千年の杜」に専任で携わっているのは、私の他にハンディキャップをお持ちの方が5名です。

先ほど潜在自然植生の木を植えていると伺いましたが、苗の元となるどんぐりはどこから集めているのでしょうか？



写真提供：横浜ゴム

樹種がその土地本来の樹種であることも大切ですが、その土地本来の木を植えるため、昔ながらの自然な森が残っている鎮守の森・地元の神社の森などから採取させていただいています。植樹には稲わらも使っています。この稲わらは新城工場と同じ新城市内の四谷の千枚田のものを使っています。四谷の千枚田では地元の鞍掛山麓千枚田保存会の方の協力をいただいて、当社の新人の体験学習や水生生物のモニタリングも行っています。

水生生物のモニタリングや草刈・外来種駆除は工場周辺の野田川と黒田川でも行っています。

植樹だけでなく、広く生物多様性の保全活動に取り組みされているのですか？

それでは最後に、読者の方に伝えたいことはありますか？

地球温暖化・生物多様性の崩壊などで、環境の悪化が確実視されています。

子・孫の代に悪化の度合いを少しでも減らして渡したいと思っています。

横浜ゴムの植樹は小さな点でしかありませんが、一人でも多く、1本でも多く樹を植えていただければやがて線になり、面になると思います。

ただ植樹するだけでなく、土地本来の植生が回復するような植樹に取組まれ、広く生物多様線の保全をしていきたいという思いが強く伝わるお話が聞けました。

「千年の杜」プロジェクトにより、この地域に生き物の生息・生育空間がつながる生態系ネットワークが構築されるのが楽しみです。